

# 『女性白書 2016 「一億総活躍社会」と女性』

日本婦人団体連合会

今年の『女性白書』は、安倍政権が掲げる「一億総活躍社会」に焦点をあてました。

7月の参議院選挙の結果に自信を深めた安倍首相は、改憲意欲を露骨に表し始めました、南スーダン PKO に「駆け付け警護」と宿営地共同防護の任務を付与した陸上自衛隊の派兵をすすめるなど、平和か戦争かのかつてないせめぎ合いの時を迎えています。私たちはこの間の行動の中で、暮らしのすべてで憲法を生かすことの意味を確信しました。

本書総論では、「一億総活躍社会」の裏には戦争をする国づくりがあることを、二宮厚美さんが指摘しています。各論では岡野八代さんが戦争法と憲法を対置して、憲法破壊政治は女性の生を犠牲にすることを解説。今野久子さんは「一億総活躍プラン」で重要な位置を占める「働き方改革」について、男女平等や女性の地位向上、世界の流れからも女性の願いからも全く逆な方向に向かっていると指摘、誰もが人間らしく働くための展望を示しています。安倍政権が「一億総活躍」で子どもから高齢者まで自立と共助を求め、その一方で社会保障制度を改悪していることが、全編を通じて明らかにされています。

暮らしと社会保障、子どもと教育、平和と民主主義など、幅広い分野にわたる「女性の現状と要求」の項には、安倍政治と対決する女性たちの切実な実態と要求が詰まっています。複数の婦団連加盟団体が昨年実施した実態調査結果も詳しく紹介し、“新 3 本の矢”と称する「希望を生み出す強い経済」「夢を紡ぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」という美辞麗句とは裏腹の女性の実態を生々しく伝えています。

6年半ぶりに出された国連女性差別撤廃委員会「総括所見」は、日本政府に厳しい勧告をしました。「総括所見」の解説、第4次男女共同参画基本計画の分析も運動に役立ちます。

巻末には、日本女性差別撤廃条約 NGO ネットワーク (JNNC) 訳による「総括所見」全文をはじめ、政府関連資料、ジェンダー統計資料、今年の年表を掲載。全編で、激動の情勢を学び運動に活用できる工夫をしています。